

京都鳥取県友会会報

発行：京都鳥取県友会

発行責任者：佐伯 希彦

令和3年10月吉日発行

事務局：075-811-7131



私の郷土感

倉吉市出身 多賀久雄（元京都府府会議長）

私は、東伯郡上小鴨村鴨河内で昭和25年11月9日に誕生しまして、生後1年を待たずに父のいる大阪に移り住んだと聞かされてきました。自分の生い立ちというものにあまり興味がなかったこともあり、当時の詳細を聞かずに今日まで過ごしてまいりました。

この拙文を書くにあたり、自分の生い立ちを知っておきたいと思ひ立ち、父母の墓や一族の墓へのお参りの折にいつも訪ねている母方の叔母や私より十歳ぐらい上の父方の従兄弟にでも確認してみようと思っておりましたが、コロナに関連した平井知事の悲痛な要請をテレビで見ても8月の帰省を断念したので、原稿の締め切りまでに確認することができなくなりました。そこで、何か手掛かりになるようなものがないかと思案を巡らせ、古いアルバムを引っ張り出し写真から推理することにしました。

まず父母のアルバムから見つけたのは、「於南谷 久雄」という見出しが合った写真で、写真の裏に生後1か月半との記載がありました。そして、私のアルバムには私たち一家が当時身を寄せていた大阪の親戚宅近くで撮影された1歳にはなっていたと思われる構図の写真がありました。つまり、大阪に行ったのは昭和25年12月下旬頃から昭和27年初頭までの間のいつかと推察されます。とりあえず、私の生い立ちは当面そうしておきます。

物心ついてからの故郷の思い出は、何といっても夏休みに母と一緒に過ごす古郷でのあれこれです。

旅の道中でも大いに楽しめました。凍ったミカンのおいしいこと。焼物の器ごと渡してくれるそば。車掌さんが乗った所と降りる所をハサミで入れる日の丸バス。

父方では。祖母の部屋で旅の疲れから蚤や虱にかまれながらも大の字になって眠り続けたこと。沢蟹やカワニナと野菜くずを桶に入れ十字になった包丁で細かく切り刻んだ豚の餌づくり。大きな肥溜めに二本の板しか渡していないスリル満点の大便所。

母方では。祖父のキセルタバコの火つけ係で煙を吸い込んでむせたこと。暴走されないようハラハラドキドキしながらの牛の散歩。何でも教えてくれる兄のような従兄弟と「何が住んでいるかわからないような不気味な淵」で泳いだり生き物を探したりの日々。大阪に帰る日にはいつも餅をついてくれた優しい叔父。

こんなこともありました。

父方の祖母の葬儀に帰った折、とにかく雪が楽しくて、弔問客が履いてきた長靴をこっそり履いて雪の田んぼを駆け回り、濡れた長靴を戻した新しい長靴を履いて駆け回るの連続で殆どの長靴を濡らし、喪主の叔父にこっぴどく叱られたこと。母方で飼っていた羊が死んでしまい肉の引き取りを呼びかける有線放送にびっくりしたこと。長男と生まれたばかりの次男を連れて墓参りに行った時には近所の小鴨川で長男が溺れかけるといふハプニングもありました。

取り留めないことを綴りましたが、これらの思い出は、私と古郷をつなぐ糸であり、間違いなく私の宝物となっております。

嬉しい受賞！おめでとうございます！！

この度、令和3年春の叙勲で多賀久雄さんが永年の議員活動のご功績を称えられ「旭日双光章」を受賞されました。誠にありがとうございます！京都鳥取県友会の誉です。

鳥取県関西本部 本部長就任のご挨拶

京都鳥取県友会の皆様、鳥取県関西本部長の高務裕子（たかつかさ ゆうこ）と申します。



今年4月に関西本部に着任し、この半年、新型コロナウイルス感染症が猛威を振るう中、皆様にお会いする機会がないことを寂しく感じておりましたが、そろそろ潮目が変わり、全国都道府県女子駅伝等、皆様とご一緒させていただける場面も増えていくのではないかと楽しみになっていました。

このコロナ禍において、観光誘客は難しいため、我々関西本部は、鳥取の特産品（すいか、梨、米、和牛、日本酒、オーガニック等）の販売促進・情報発信に軸足を置いています。

私はこの3月まで鳥取県東京本部に勤務していたため、東京に比べて関西圏でのスイカや梨の鳥取ブランド力の高さに驚きました。他の生産地に比べて価格は高いのですが、百貨店や量販店で並べられる面積をしっかりと確保され、しかも売れていきます。

特に、鳥取県が20年かけて作り出した梨の新品種「新甘泉（しんかんせん）」は、二十世紀梨の系統をひいて瑞々しく、かつ、消費者の嗜好の変化に合わせて糖度が抜群に高い赤梨です。「転がすと300キロ出るのでよ」と鳥取県知事が時々冗談を飛ばしておられますが、その絶妙なネーミングと美味しさで、認知度がかなり高くなっていることを実感しました。

10月からは、一昨年にデビューしたお米「星空舞（ほしぞらまい）」の新米も販売されます。ツヤと甘みが自慢で、「冷めてもおいしい」自慢のお米ですが、全国に美味しいお米がたくさんあって戦国時代の様相ですので、勝ち抜いていくのはなかなか大変です。

鳥取を大切に思ってくださっている皆様のお話を伺って、いろいろ勉強させていただけたらと思っています。

コロナ禍が落ちついて、京都鳥取県友会の皆様と笑顔で色々なお話ができる日を楽しみにしております。

京都鳥取県友会 会長挨拶



会員の皆様・・・ごきげんよう。

コロナ感染防止緊急事態宣言が解除されました。会員の皆様はコロナに負けず元気一杯ご活躍のことと存じます。（ご同慶の至り）

まもなくお酒もたくさん飲めるようになるでしょう。県友会の行事予定を掲載していますので、たくさんのご参加をお願いします。

【コロナ感染者の一番少ない鳥取県をふるさとにする京都鳥取県友会・会長 佐伯希彦】



～コロナ禍、毎日どのようにお過ごしですか～

【私の散歩道】

家にじっとしていると体力も気力も低下して、このまま年を重ねていくのかと不安になります。そんな時は散歩が一番。毎週1回嵐山大覚寺前のバス終点から嵯峨野の田園地帯の農道を散歩します。三方を山に囲まれていても広々と緑が美しい一帯で四季折々の変化を楽しませてくれます。春は菜の花畑、レンゲ畑、じゃがいも畑。6月は田植えの準備、用水路の整備。そこにはしじみ貝がたくさんいて農薬があまりつかわれていないのを実感します。水田に水が張られ、山や青空や雲が映ル少しの間の貴重な風景に見とれます。田植えされると一面の新緑が波の様に風にたなびきます。田植えをされていない所は手入れをされた野菜畑。畑の横に季節ごとの野菜が1個100円で売ってあります。形が悪いが新鮮なものばかりで好きなものを選んで設置してある小さな金庫にチャリンとお金を入れます。これも散歩の楽しみです。この春ネギが立派に成長しても収穫されず、もったいない、この畑はどうなるかと思う間に草ぼうぼうになってしまいました。直前まで頑張っておられたが、畑に来ることが出来なくなられたのか耕作放棄地になり、農業の大変さを思いました。稲の方は今は稲穂が実り秋茜トンボが飛び、もうすぐ黄金色になるでしょう。

いろいろと四季を味わいながらの散歩で自然に癒され、1年8か月をやり過ごすことが出来ました。1日も早くコロナが終息して当たり前の生活ができる日が来ることを願っています。

(藪内康子)



【毎朝の健康作り】

毎日コロナの情報でうんざりですね。何とか元気にしています。食料の買い出しと週2回ほどの早朝の公園散歩、週1の仕事が活動力です。また毎朝のサラダ作りが楽しみです。いろいろ趣向をこらして作っています。早く皆さんとお話できますように。

(山本澄江)



【私の今日この頃】

私は断捨離にとりかかりました。衣類は宇治市役所に持参。東南アジアの各国に送ってくださるそうです。次は蔵書の整理。退職時に子ども向けの本は近くの小学校に寄付していましたが、まだまだ残っていましたので古本屋に持っていき売りました。どちらとも捨てるよりは誰かの役に立った方がいいと思い・・・しかし、あれだけ片付けたはずなのに見回すとまだまだあります。今の内に不要なものを順番に処分せねばと思っている所です。

(横川ひとみ)

【私の趣味】

令和元年5月1日に右手首を骨折。入院、手術をして無事に復活しました。病院の先生がジャニーズに所属しているかのような美男子だったのがせめてもの救いでした。コロナ禍になると、ステイハウス！と言われ、ワンちゃんのように家につなぎ留められていました。バイオリンは一向に上達しませんが、コロナが収束しましたらホームコンサートができるように練習に励みたいと思っています。11月20日・21日に京都産業会館にて未生流京都支部展があり生け花を出展します。お時間があれば見に来てください。毎日元気に過ごしております。(前原清子)

コロナ禍の認知症予防(とっとり方式認知症予防プログラム)

8月NHKきょうの健康という番組で上記のテーマで鳥取大学医学部教授の浦上克哉先生のお話がありました。(先生は認知症予防学会の理事長もされています。)

- ①発症しないことが一番大事(どうかなあ・・・と思ったときに予防すると6割が改善)
- ②脳を活性化する運動(運動50分、座学または休憩20分、知的運動50分を週1回継続して行う)
※この3つの運動を組み合わせたプログラムの医学的効果が全国で初めて証明されたそうです。
- ③例として「運動」では、有酸素運動(5の倍数に手をたたき、7の倍数に手を上げるなど)柔軟性(手で足をつかむ)など。「知的運動」では、頭を使って指先を動かす(4文字を読み上げ、逆さから言う。歌いながら手を動かすなど。)これらは記憶力・注意力・思考力・判断力を刺激することにつながります。
- ④家でできること・・・「塗り絵」「パズル(チラシを用いてもよい)」「文字を書く」などが取り上げられていました。

人生100年時代、元気で長生きするために「とっとり方式」をやってみてはいかがでしょうか？

こんなところで鳥取を発見

ある日、用事がありご近所のお宅に伺った時のことです。なんと、そのお宅は元鳥取藩士子孫だったのです。きっかけは、玄関に入ってすぐ目に入った暖簾でした。

その暖簾には三柘の家紋がついており、「〇〇家」と書かれていたので、由緒あるものだと感じ、「これは・・・？」と聞くと、「鳥取藩士」というお言葉が出てきたのです。あつかましくも応接間に入らせていただき、いろいろお話を伺いました。応接間には額に入った「三柘」の家紋がありました。

ご先祖の藩士が、明治維新を機に北海道へ移住されたそうです。この方は京都から北海道へ嫁がれたそうですが、何十年か前に京都に戻ってこられたとの事。今でも本籍地は釧路市鳥取町だそうです。釧路市の地図を見ると、「鳥取」という町名や学校名等が随所にあります。北海道に鳥取があるなんて思いもよらないことでしたので、私にとっては大発見な出来事でした。(横川ひとみ)



【今後の予定】

コロナ感染状況で変更の可能性もありますが、ご予約ください。

- ・全国高校駅伝 令和3年12月26日(日)
- ・全国女子駅伝 令和4年1月16日(日) カニ汁販売
- ・春季総会 令和4年6月5日(日)

